

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-7886

(P2020-7886A)

(43) 公開日 令和2年1月16日(2020.1.16)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E 0 3 C 1/06 (2006.01)	E O 3 C 1/06	2 D 0 6 0
A 4 7 K 3/28 (2006.01)	A 4 7 K 3/28	2 D 1 3 2

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2018-138048 (P2018-138048)	(71) 出願人	518262040
(22) 出願日	平成30年7月3日 (2018.7.3)		天野 栄
			沖縄県中頭郡中城村字登又185番地 サ
			ニーチナコーポ203号
		(72) 発明者	天野 栄
			沖縄県中頭郡中城村字登又185番地 サ
			ニーチナコーポ203号
		Fターム(参考)	2D060 BA01 BF07
			2D132 FA02 FA15 FB02 FC04 FD01
			FJ05

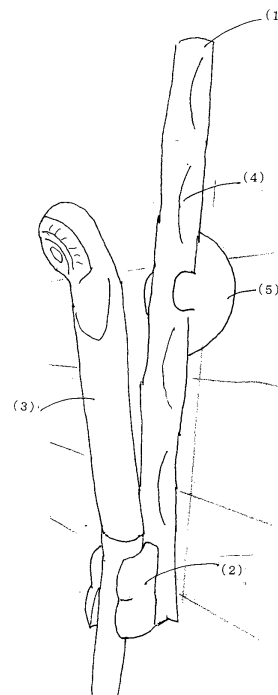
(54) 【発明の名称】 シャワーハンガー

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】構成部材を削減すると共に、工事もせずに、シャワーバーの高さを容易に変更するために、操作が容易なシャワーハンガーを提供する。

【解決手段】シャワーハンガー1の主軸端部分に設けられているシャワーフック2は、いずれの方向からもシャワーバー3の差し込みが可能となっている。シャワーハンガー1の主軸部分には、浴室等に既に設けられているシャワーフック5に直接掛けられるように凹部4が複数施されており、主軸が上下逆になっても掛けることが可能となっている。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

浴室等の壁面に設けられているシャワーフック（５）を利用し、高さ調整可能なシャワーハンガー（１）であって、そのシャワーハンガー主軸端部分にシャワーフック（２）が設けられ、シャワーバー（３）をいずれの方向からでも差し込めるよう形成されている。

【請求項 2】

浴室等の壁面に設けられているシャワーフック（５）を利用し、高さ調整可能なシャワーハンガー（１）であって、シャワーハンガー（１）の主軸部分には、浴室等に既に設けられているシャワーフック（５）に直接掛けられるよう凹部（４）が複数形成されている。

10

【請求項 3】

浴室等の壁面に設けられているシャワーフック（５）を利用し、高さ調整可能なシャワーハンガー（１）であって、シャワーハンガー（１）の主軸部分に施されている複数の凹部（４）は、シャワーハンガー（１）が逆になっても浴室等の壁面に設けられているシャワーフック（５）へ掛けられるよう形成されている。

【発明の詳細な説明】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

20

この発明は、例えば浴室等の壁面を利用し、高さ調整可能なシャワーハンガーに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種のシャワーハンガーとして、天井までポールを立てたり、ポールを壁面に沿って取り付け、そのポールをスライドするシャワーフックへシャワーバーを差し込むことでシャワーの高さを調整していた。

【0003】

特許文献１に記載のものは、壁面へ取り付けたポールへシャワーフックを上下へスライドさせる構造である。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献１】特開２００７－３２７１７３

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献位に記載のものにおいては、シャワーを任意の位置とするため構成部材が多くなり、構造が複雑となり、取り付け工事も発生することから懸念がある。

【0006】

40

この発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、構成部材を削減すること共に、工事もせずに、シャワーバーの位置を決めることができるシャワーハンガーを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するため、この発明のシャワーハンガーは、浴室等の壁面に設けられているシャワーフックを利用し、高さ調整可能なシャワーハンガーであって、シャワーハンガー主軸端部分にシャワーフックが設けられ、このシャワーフックへシャワーバーをいずれの方向からでも差し込めるよう形成されていることを特徴とする。（請求項１）

【0008】

50

シャワーハンガーの主軸部分には、浴室等に既に設けられているシャワーフックに直接掛けられるよう凹部が複数形成されている。（請求項２）

【０００９】

シャワーハンガーの主軸部分に施されている複数の凹部は、シャワーハンガーが逆になっても浴室等の壁面に設けられているシャワーフックへ掛けられるよう形成されている。

【０００１０】

この様な構成は、シャワーハンガーの主軸端に設けられたシャワーフックを上部にする事で高い位置でシャワーバーを差し込むことができ、高い位置からのシャワーとなる。シャワーハンガーの主軸端に設けられたシャワーフックを下部にする事で低い位置からのシャワーとなる。

10

【０００１１】

この発明によれば、上記のように構成されているので、以下のような優れた効果が得られる。

【０００１２】

通常、浴室の壁面に設けられているシャワーフックは上下２ヶ所が多く、このフックを利用すれば高い位置から低い位置までシャワーがカバーされる。

【０００１３】

この発明品を求めた日から、工事もいらず家族全員が求める高さからのシャワーが可能となる。

【０００１４】

転勤等になった場合でも、浴室への工事を行っていないことから原状回復もいらず、器具を移動先へ持ち込んだ日から求める位置でのシャワーが可能となる。

20

【図面の簡単な説明】

【００１５】

【図１】この発明に係るシャワーハンガーの斜視図である。

【図２】この発明に係るシャワーハンガーの使用状況の斜視図である。

【図３】この発明に係るシャワーハンガーの使用状況の斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１６】

以下に、この発明に係るシャワーハンガー（１）の実施形態を添付図面に基づいて詳細に説明する。

30

【００１７】

この発明に係るシャワーハンガー（１）は、図１及び図２に示すように、浴室の壁面に設けられたシャワーフック（５）へ直接掛けられる。

【００１７】

シャワーハンガー（１）は、主軸端に設けられたシャワーフック（２）が上部で正面を向き、シャワーハンガー（１）の主軸に形成された凹部（４）を浴室壁面に設けられたシャワーフック（５）へ押し込むようにし主軸を少し下げるようにすることでシャワーフック（５）へ凹部（４）が掛かる。。

【００１８】

シャワーハンガー（１）が立った状態となり、先端にシャワーフック（２）があり、それへシャワーバー（３）を上から差し入れる。シャワーは高い位置からとなる。主軸の凹部（４）の位置を変えるだけで高い位置での高さが変えられる。

40

【００１９】

シャワーハンガー（１）は、主軸端に設けられたシャワーフック（２）が主軸の下部で正面を向き、シャワーハンガー（１）の主軸に形成された凹部（４）を浴室壁面に設けられたシャワーフック（５）へ押し込むようにし主軸を少し下げるようにすることでシャワーフック（５）へ凹部（４）が掛かる。

【００２０】

シャワーハンガー（１）が垂れ下がった状態となり、先端にシャワーフック（２）があ

50

り、それへシャワーバー（３）を上から差し入れる。シャワーは低い位置からの放たれる。主軸の凹部（４）の位置を変えるだけで低い位置での高さが変えられる。

【００２１】

通常、浴室に設けられているシャワーフック（５）は上下に２か所あることから、２か所で同様のことを行えば幅広い中で高さが求められる。

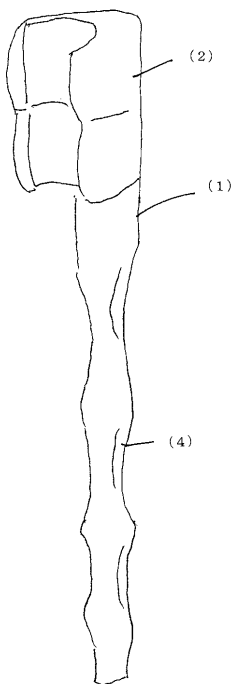
【符号の説明】

【００２２】

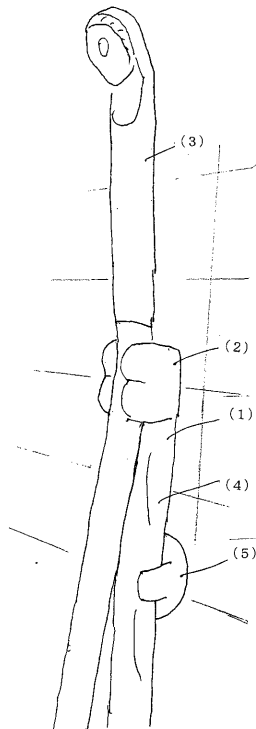
- １ シャワーハンガー
- ２ 主軸端部分に設けられているシャワーフック
- ３ シャワーバー
- ４ 凹部
- ５ シャワーフック

10

【図１】



【図２】



【図 3】

